

津田山駅自由通路の開設 (令和2年5月)



JR 津田山駅は、住民が使用する公共交通機関であると同時に、近隣に位置する緑ヶ丘霊園や川崎市子ども夢パークなどの最寄り駅として、多くの方に利用されてきました。しかし、駅自体の老朽化やエレベーター等の昇降施設の未設置などにより、改修を望む声が多く上がってきました。

市議会でも議論を重ね、早期実現に向け働きかけてきましたが、市とJR東日本との長年の協議の末、片側改札への対応、通学児童等への安全対策やエレベーターの設置などの利便性・安全性向上のため、新たに自由通路等を整備することになり、令和2年5月22日に供用を開始しました。

<議会での審議経過と市の取り組み>

【平成13年 第3回定例会（6月）】

質問

先日、JRは各駅にエレベーター等を今後10年間で設置すると発表しました。この計画には設置基準があるのか、川崎市内の対象となる駅はどこかを伺います。

答弁

エレベーターの設置対象となる駅は、津田山駅1駅でございます。今後は協議検討を進め、市内の駅舎のバリアフリー化の促進に積極的に努めてまいります。

JR東日本によるバリアフリー化の取り組みとは・・・

平成12年に制定された通称「交通バリアフリー法（正式名称：高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律）」によって、鉄道駅は、その社会生活の円滑化に資するために、駅周辺のバリアフリー化についても考慮することが定められました。

このような状況を踏まえ、JR東日本では平成22年までに、一定の乗降者数があり、高低差が5m以上ある駅には、すべてのホームにエレベーター等を設置するなどして段差を解消することなどを発表しました。

また、交通バリアフリー法ではその駅のある市町村と共同で、駅周辺のバリアフリー重点整備地区について、基本的な構想を作成することができるとしており、本市においても各所で作成されています。

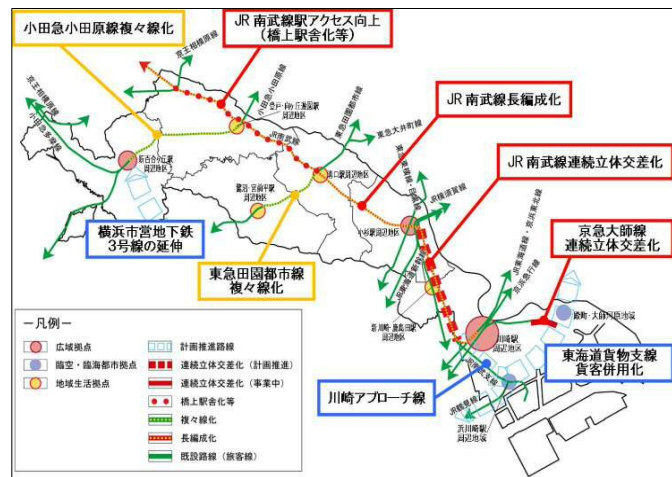
市の鉄道に関する交通施策概要・・・

市内における鉄道交通施策は、活力ある都市構造形成と誰もが安全、安心、快適に利用できる交通環境の整備等を目的に推進されてきました。

北部では、登戸駅と新百合ヶ丘駅間における「小田急小田原線複々線化」と「横浜市営地下鉄3号線の延伸」による新百合ヶ丘駅までの接続が予定され、中部では、溝の口駅と鷺沼駅間における「東急田園都市線複々線化」が、南部では、川崎大師駅から小島新田駅間における「京急大師線連続立体交差事業」、川崎駅と浜川崎駅間の「川崎アプローチ線」などの様々な計画がされています。

それと同時に、市を南北に縦貫するJR南武線については、「南武線連続立体交差事業」が昭和50年から開始され、現在においても武蔵小杉駅以南では取り組みが継続されています。

【計画一覧】



広報キャラクター
およよん

【平成18年 決算審査特別委員会（9月）】

質問

J R 津田山駅ですが、バリアフリーの観点から、エレベーター早期設置の要望の強い駅です。また、ホームの屋根が短いので拡張することもあわせて J R に要望していただきたいと思いますが、伺います。

答弁

津田山駅のバリアフリー化につきましては、交通バリアフリー法の趣旨を踏まえて、すべての利用者が安全かつ快適に利用可能とすることが重要であると認識しています。早期にバリアフリー化することと、ホーム上の屋根についても、J R 東日本へ要望してまいります。

【平成20年 第5回定例会（12月）】

質問

平成22年度までにバリアフリー化を行うとJR東日本から伺っているとのことでした。しかし津田山駅はホームが全体的に老朽化しています。エレベーター設置と同時にホームの改修、屋根の増設についてJR東日本の見解と対応を伺います。

答弁

津田山駅のホームにつきましては、一部で表面劣化が生じている箇所がございます。JR東日本からは、この改良に向けて検討を進めていると伺っております。

次に、ホームの屋根につきましては、今後も計画的に整備を進めていく予定であるとの回答を得ておりますので、引き続きJR東日本に要望してまいります。

<地域の要望>

また、同年には、津田山駅とその周辺環境の早期整備を求める要望書が、2472筆の署名とともに市長に対して提出されました。

**JR津田山駅への早期のエレベーター設置と
駅及び周辺の改善を求める要望書の概要**

JR津田山駅周辺には公共施設や大型スーパーもあり、駅のバリアフリー化と周辺の整備が求められていますが、利用者からは「駅の階段がきつくて大変、ベビーカーを押した人、車椅子の人には乗り降りできない」との声がたくさん寄せられています。

川崎市からJRへ早期実現を強く要望していただき、市独自で実施可能な要望は実現するよう、署名を添えて要望します。

<要望事項>

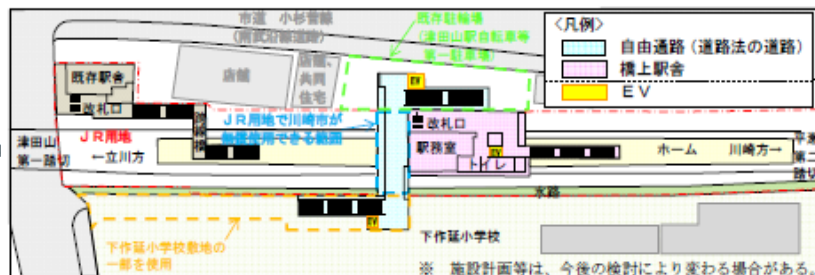
- 平成22年度を待たずに早期にエレベーターを設置してください。
- 緊急時の対応のためにも駅員を常時複数配置してください。
- 定期券や長距離キップの販売を復活してください。
- 駅前のひろばを確保してください。
- 駅利用者の為の駐輪場を確保してください。
- 駅ホームの屋根を延長してください。
- 踏み切りを拡幅して歩道を確保してください。
- 将来的には橋上駅舎にしてください。

取り組みとしては・・・

こうした要因により、延期となっていたJR東日本の駅構内バリアフリー化整備等の検討でしたが、市が進める津田山駅のエレベーター付き跨線橋の検討と同時期になったことから、JR東日本と市が個別に整備するのではなく、費用を分担し、共同事業を行うことになりました。

また、その検討の中で、従来案より駅南側からのアクセスの向上など利便性が高いことから、津田山駅の橋上駅舎化と自由通路の開設についても、平成24年度に両者で整備を行うことが決定され、平成28年には協定を締結しました。

【橋上駅舎化の計画図】



【平成26年 第2回定例会（6月）】

質問

津田山駅は、自由通路や駅舎壁面をガラス張りにすると、近隣の住居内が丸見えになってしまいプライバシーが侵害されるという意見も出されています。これについて検討されるか伺います。

答弁

プライバシーへの配慮につきましては、近隣住民の方々からの御意見を踏まえ、駅舎のガラス面の一部を曇りガラス等へ変更することなどにより対応してまいりたいと考えております。

取り組みとしては・・・

近隣住民の方々から寄せられた住民意見を踏まえ、住居等に面した部分では、曇りガラスに材質を変更し、プライバシーや住環境に配慮したデザインとなるように工事内容が変更されました。

【曇りガラス施工箇所】



【平成30年 第4回定例会（12月）】

質問

津田山駅における、現状と今後について確認をさせていただきます。駅舎整備時に駐輪場を整備すること、ホームの屋根をホーム改修と一緒に延長することについて、伺います。

答弁

津田山駅駐輪場につきましては、既存駅舎を撤去後、その跡地に駐輪場を整備することについて本市とJR東日本との間で合意をしております。ホームの屋根につきましては、現在よりも屋根は延長される予定でございます。

取り組みとしては・・・

駐輪スペースを確保することで、駅周辺の交通利便性が向上しました。

また、屋根延長とホームの本体工事により、雨天時等でも安心して利用できるように安全対策を講じました。

【駅前駐輪場】



【延長された屋根】



質問

津田山駅について、北口使用開始に向けてこの間要求してきた車の乗降スペースの確保について伺います。

答弁

車の乗降スペースにつきましては、北口の駅前空間の整備にあわせて都市計画道路小杉菅線の歩道の一部を改良し、確保してまいります。

取り組みとしては・・・

津田山駅北口の駅前整備により、車道の一部を駅側へ広げることで、利用者用の乗降スペースが確保されました。この工事により、駅利用者が車両から乗り降りする際の利便性が向上しました。

【駅前乗降スペース】



津田山駅自由通路開設工事の概要

事業費 約22億円（川崎市負担 約20億円、JR東日本負担 約2億円）

整備主体 川崎市・JR東日本

工事期間 平成29年3月～令和2年5月

自由通路及び仮設通路の使用開始は令和2年5月22日

※北口側からの自由通路及び橋上駅舎は令和元年6月に使用開始

自由通路概要 工事延長：55m 幅員：通路部4m エレベーター2基

【自由通路の写真】



【津田山駅外観】



【自由通路の外観】

